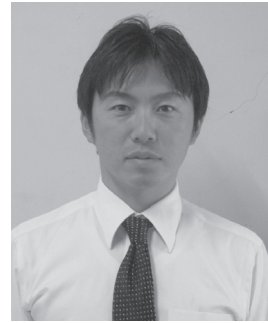


## 特集 「社会を生き抜く力と希望をはぐくむ教育の推進」

——「ESD (持続可能な開発のための教育)」研究指定校 ——

### 持続可能な社会の担い手としての 自覚を持った生徒の育成 ～地球規模で考え、足もとから行動～



見沼区 大宮八幡中学校 教諭 伏木 宏 治

#### 1 はじめに

本校は、見沼区にある全校生徒325人の小規模校であり、学区内に小学校がない市内唯一の中学校である。平成27・28年度さいたま市教育委員会からESDの研究委嘱を受けたことを一つのきっかけにして、ESDを本校の特色とするべく、全職員が熱心に研究に励み、日々の教育活動に取り組んでいる。

#### 2 研究の概要

##### (1) 主題設定の理由

本校は、JRC加盟校としての歴史があり、主に人権教育や環境教育を推進してきた。それら従来からある取組をESDの観点から見直し、そこに後述する新たなESDの取組を加え、地球規模の課題について認識させ、中学生として今何ができるかを知り、考え、足もとから行動させている。これらの活動を通し、自己の存在の大切さに気付かせ、自己肯定感の高まりを期待している。そして、持続可能な社会を実現するため、ESDの視点を身に付けた生徒を一人でも多く輩出していきたいと考えている。

##### (2) 具体的な取組

###### ①「地域・環境・人権プロジェクト」

地域清掃・社会教育施設との連携・八幡ファームの運営・人権朝礼や人権講演会・職場体験学習・幼児ふれあい体験・外部から講師を招いての環境教育の実施等

###### ②「国際理解・多文化共生プロジェクト」

- JRC活動の継続・世界一大きな授業の実施
- ユニクロ「服のチカラプロジェクト」参加
- ブルキナファソ国視察団の受入れ・JICA「世界の笑顔のために」プログラム参加
- 「留学生が先生」プログラムを活用した国際理解教育・アフリカンミュージック鑑賞等

これらの活動を、地域の社会教育施設である五反田会館やJICA、ユニクロ等、多くの団体の協力を得ながら、ESDカレンダーを活用して教科横断的に取り組むだけでなく、総合的な学習の時間や委員会活動等、全ての教育活動で行っている。また、毎月、拓殖大学国際学部石川一喜准教授を講師に招聘し、職員研修を行い、指導力やファシリテーションスキルの向上等に努めている。

#### 3 成果と課題

ブルキナファソ国視察団への歓迎会やミャンマー・ドイツ等の留学生との交流を通して、生徒は世界が身近なものであると感じるようになった。給食の残食率も減り、「服のチカラプロジェクト」では約6,500着の子ども服を集め難民支援に協力するなど、自分たちの小さな活動が世界につながり、未来を変える可能性があることを生徒は感じ始めている。今後も、活動内容や活動時間を工夫し、ユネスコスクールとしての自覚を持って、ESDの更なる充実に努めていく。